

「日本におけるケミカルバイオロジー研究新展開」に関する研究開発専門委員会
第2回委員会 議事抄録

日 時 平成24年8月2日
場 所 ホテル京阪京都 2階「桜の間」
出席者 長田裕之（委員長）、穴澤秀治（副委員長）、
浅見忠男、味戸慶一、井本正哉、上杉志成、上仲俊光、岡部隆義、
掛谷秀昭、河岸洋和、菊地和也、木村宏之、斎藤臣雄、白井真、
新家一男、田中隆治、辻尚志、永野栄喜、馬場良泰、濱口洋、春山英幸、
日野資弘、矢守隆夫、吉村巧（五十音順、敬称略）
欠席者 上村大輔、遠藤正志、大島悦男、菅裕明、菅原二三男、袖岡幹子
（五十音順、敬称略）

1. 講演 ～国際連携の取り組み

- ・長田裕之委員長（理化学研究所基幹研究所 ケミカルバイオロジー研究領域）
「理化学研究所 ケミカルバイオロジー研究領域の国際連携」
韓国 KRIBB、マレーシア USM、ドイツ Max Planck Institute との
共同研究の紹介
- ・穴澤秀治副委員長（日本バイオインダストリー協会 先端技術開発部）
「バイオインダストリー協会における取り組み」
最新テクノロジーの紹介/情報提供、規制に関わる政策に対する意見表明、
国策プロジェクト、経産省基盤整備事業の提案
- ・永野栄喜委員（住友化学工業(株) 健康・農業関連事業研究所）
「ケミカルバイオロジーの農薬分野での課題」
天然リソースを用いて農薬探索、
対象生物を使ったスクリーニングが可能な点が農薬開発のメリット
- ・上杉志成委員（京都大学 化学研究所）
「アジアケミカルバイオロジーイニシアチブの取り組み」
アジアでゴードンリサーチカンファレンスと同様の取り組みができるか
学生を受け入れ：ベトナム(2011)、韓国(2012)、マニラ(2013)、マレーシア(2014)
- ・上仲俊光委員（エーザイ(株)オンコロジー創薬ユニット）
「エーザイ株式会社における取り組み」
ケミカルバイオロジーの技術、ノウハウ、コンセプトを抗がん剤開発に活用
チューブリン作用薬 スルホンアミド、カイネース阻害剤 放線菌由来 E7107